

20160717 「ルステラ伝道」

目 標：教会史上初の本格的異邦人伝道の次第を知ることを通し、伝道には困難さが伴うことに気付かせ、だからこそ伝道に挑戦すべきことを示す。

聖 句：「あなたがたがこのような愚にもつかぬものを捨てて、天と地と海と、その中のすべてのものをお造りになった生ける神に立ち返るようにと、福音を解いているものである」(使徒 14:15)

時 間： 10分

道 具： ホワイトボード、ペン、地中海の地図

対象者： 小6×1 小5×1 小3×3 小2×2 未就園児×4

留意点：テキスト全体は比較的簡潔で、ドラマティックな一貫したストーリーである。対話よりも一緒にテキストに向き合う方向性のもがテキストにふさわしいと思われる。

段階	時間	教師から	子供に予想される反応	備考
課題確認	2分	先週、パウロとバルナバが言ったのは何という島でしたか。 今日はその後のパウロの伝道の足跡をたどります 地図を見て下さい。	・クプロ(キプロス島)	前回とのつながりを確認する。 地中海の地図を掲げる。あまりにも宣教地域がクローズアップされていると、却ってわかりにくいので、全体の俯瞰地図と地域地図に枚を用意するのが望ましい。 舞台となったトルコは、先週クーデターで何人もなくなったあの地域だと言及し、場所のイメージ化を助ける。
課題探究	6分	パウロとバルナバらは、キプロス島のパポスから、パンフリヤのペルガ、そして内陸のピシデヤのアンテオケに行きました。 その後、イコニオムに行き、ルステラにつきました。 ルステラでも伝道する中、いろんなことが起きました。		シリアのアンテオケとピシデヤを区別するように付言する。 イコニオムでの出来事は、割愛する。 ルステラでの出来事のあらすじは以下の通り 生まれつきの足なえの癒し(信仰によったとの強調) 驚いた群衆が、ギリシャ神話の神様が来たと誤解した 最初解らなかった二人は、事情を聴いて叫び制止する パウロは死んだと思われたが立ち上がり、デルベに行く船で帰還、報告。「私達には苦しみが必要である(22)」
まとめ	2分	伝道とは福音を伝えるということです。まずイエス様が私たちに、福音を伝えるために大変な苦勞をなされたことを思い出したいと思います。 伝道には苦しみが伴うものだ、だからどうするか。するのか、しないのか。一人一人に、聖書を通してイエス様が問いかけているのではないでしょうか。 暗誦聖句		185号のテーマからの反映。 苦勞するなかで前進しておられる宣教師や信徒さんの事例を、時間が許す限り挙げていきたい。